



やまゆり

学校だより

令和6年月29日
24号
学校長 杉本賢二

校訓 「和の心」
学校教育目標 「社会に貢献しながら自立する生徒の育成」一気づき・考え・実行する一
校内研究重点 「WEBQUを活用し、学級の安定と活性化を図る」

学校教育目標重点 「確かな学力の育成」

「評価」について理解を深める

1学期末を迎え、各教科の学習状況を理解し、今後に生かすために「評価」に関する理解を深めたいと思います。生徒・保護者の方々の参考資料としてご活用下さい。

新学習指導要領における「評価」の考え方と評価方法について

1 新学習指導要領の実施により、「学力」は以下の3つです。

- 1) 「知識・技能」
- 2) 「思考力・判断力・表現力」
- 3) 「主体的に学習に取り組む態度」

2 上記の3つの学力を評価し力を育成するための、「評価」の考え方。

評価は、「一人一人の児童・生徒に学習指導要領の内容と指導事項」が確実に定着するために「学習の状況」に対して行います。

3 育成すべき3つの学力を確実に育成するために、4つの評価方法を使います。

- 1) 目標に準拠した評価 (学習指導要領の指導事項に対する評価・学習のめあて)
- 2) 観点別評価 (3つの学力をA・B・Cの達成度で評価する・どの程度の達成状況か)
- 3) 総括的な評価 (5・4・3・2・1で評価する・長い期間の評価を端的に表現)
- 4) 個人内評価 (生徒一人一人の良さや成長、可能性について評価する)

4 新しい3つの学力を育成するための、評価に関する考え方や方法（文部科学省の方針）

- 1) 生徒の学習の改善につながるものにする。
- 2) 教職員の指導の改善につながるものにする。
- 3) これまで行われてきたことでも、必要性や妥当性が認められないことは改善する。
例： 順位と平均点(集団内の状況を知る相対評価)・挙手の回数・提出物の状況等

5 「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法

- 1) 「挙手や発言の回数、ノートやワークの提出状況等の性格や行動面で評価する方法は信頼性・妥当性のある評価ではない」と文部科学省から示されています。
- 2) 知識・技能と思考力・判断力・表現力の2つの観点と「主体的に学習に取り組む態度」が関わり合って評価されます。
例：知識・技能、思考力・判断力・表現力の評価が低いと、「主体的に学習する態度」の評価も低くなります。
- 3) 「粘り強く」取り組む様子や、学習計画を立てたり、目標達成のための方策を考えたり、すでに習ったことを活用したりして「自己調整力」を働かせている状況をA・B・Cの達成度で評価します。
例 ① 興味や関心をもって(楽しく)学ぶ(内発的学習意欲)
② 目標をもち、自分で学習を工夫している(達成の意欲)
③ 粘り強く、努力している(行動的)
④ クラスの人と協力して学んでいる(向社会的)
⑤ やればできると思い学んでいる(効力感)

6 A・B・Cの評価基準(達成度)

A評価:「十分に満足できる状況」と判断されるもの

B評価:「おおむね満足できる」と判断されるもの

C評価:「努力を要する」と判断されるもの

7 知識・技能の評価方法

ペーパーテストで「知識や技能」について達成度をA・B・Cの達成度で評価する点については以前と同じ考え方と方法です。しかし、知識や技能を活用して説明したり、観察や実験をしたり、式やグラフで表現することに生かしているかも評価します。

8 思考力・判断力・表現力の評価方法

小テストや期末テスト等のペーパーテストに準拠した知識や技能による到達度の評価だけではなく、どの教科においても体育や美術と同じように、実技をしたり、絵を描いたりするように、実際に話したり、レポートを書いたりする「成果物」や「パフォーマンス」等から達成度をA・B・Cで評価します。

9 評価の機会と回数について

本校では、「1・2学期の期末テストは実施しますが、中間テストは実施せず、基本的に単元ごとの評価をします」。

- 1) 小学校と同じように「単元」を基本とした学習で3つの学力の評価をバランスよく行います。特に、思考力・判断力・表現力や主体的に学習に取り組む態度の評価を適切に実施できます。
- 2) 単元を基本とした学習の評価で一人一人の学力保障の可能性を高められると考えます。
- 3) 単元目標とB評価(何が、どの程度達成できていれば概ね満足できる)というレベル設定を生徒と共有して指導します。
- 4) 単元を基本とした評価は、範囲が狭く、個に応じた指導をしやすいために学力の達成度の可能性が高くなると考えます。
- 5) 評価の回数が増え、成果や課題を次の単元に生かして学習することができます。
- 6) テストの問題より、単元の学習の方が興味や関心、主体性を向上させることができます。また、成果物の評価をB以上にできる可能性が高くなります。

10 「観点別評価」を「総括的評価」(評定)に変える考え方と方法

学力 ↓	(単元の数) →	単元①	単元②	単元③	単元④	
知識・技能		A	A	A	B	→
思考力・判断力・表現力		B	B	B	A	→
主体的に学習に取り組む態度		A	B	A	B	→

学期末
A
B
A

↓

3つの学力の観点別評価が「オールA」の場合5、「オールC」は1の評定。
 「A」に一つ「B」が入れば「4」、「C」に一つ「B」が入れば2、他は「全て3」の評定です。
 上記の「A・B・A」の観点別評価は、総括的評価(評定)では「4」です。

11 「調査書」は、志望校決定・合否に大きな影響

- | |
|--|
| ① 調査書の成績(点数) 50% ※ <u>1年～3年までの評定が高校入試の合否対象</u> |
| ② 受検による成績(点数) 50% |

12 一般的な調査書の点数化の考え方と方法

※ 各高校によって独自加点があり、公表されていないので詳しいことは分かりません。

例 部活動や英検等の資格、ボランティア活動等、その他の実績も加点されます。

前期入試は、各校の独自の検査で評価します。

① 一般的な通信表等の5教科の成績の点数化方法

オール5の場合 評定「5」×2倍×5科目＝50点

評定「5」×3倍×4科目＝60点

合計110点×3年間＝330点

オール1の場合 評定「1」×2倍×5科目＝10点

評定「1」×3倍×4科目＝12点

合計22点×3年間＝66点

② 高校入試(前期・後期)の得点と調査書の得点の双方を評価し、合否判定を行います。

関東甲信越地区中学校長会で本校の校内研究の実践発表をしました

6月8・9日に甲府市で開催



文部科学省の教育課題説明



山梨大学学長の講演



第9分科会で本校の実践発表 協議の様子



関東甲信越地区の校長が500人集まり、山梨で研究協議会を開催しました。(対面開催は4年ぶり)
第9分科会では、本校の校内研究の実践を発表し、大学の専門家を活用し、生徒への情熱ある組織的な指導と教育課題に対応する実証の成果に評価を頂きました。